



住環境に起因する多様な病気に 統合医療の視点から立ち向かう

統合医療センター 福田内科クリニック

福田 克彦 副院長

対症療法から原因治療へ、いま注目の「統合医療」。

住環境が招く病気も統合医療的アプローチから見出し、

その日に即症状が緩和し帰っていただくことを心掛けている。

福田医師は「必ず結果を出すこと」をモットーに、今日も患者と向き合う。

対症療法から原因治療へ、
温故知新の最新・最適の医療を

当院は1982年に私の父親である院長・福田正彦が開いたクリニックです。父は山陰地方初の脳神経内科医として松江の地に開院し、12年前に私が着任し呼吸器・アレルギー・東洋医学・心療内科を開設しました。

その後は抗加齢医学や統合医療診療の領域を広げ、現在は催眠療法や気導術、ホメオパシーやバイオレゾナンス、スカラー・プラズマエネルギー、幹細胞上清や便移植・遺伝子治療などを織り交ぜ、心身に優しい診療を追求しています。「対症療法」中心の現代西洋医学では解決できない問題を五階層の生体エネルギー場から観て「原因療法」を中心とした伝統医学や相補・代替医療と統合することで、患者さん一人ひとりに適切な医療を提供する「統合医療」は、いま日本全国に広まってきたおり、当院も山陰の地から発信しながらその一翼を担っております。

甲府市にある Nanasawa Institute ではドイツの建築環境学である「パウビオロギー」の概念を日本の「イヤシロチ」の考え方に統合した「宅理学」という新たな領

多様なアプローチにより、
“次回でなく今結果を出す”
統合医療の大きな可能性。



福田内科クリニック 診療案内
院長 福田克彦
副院長 福田克彦
内科・精神科
小児科・アレルギー科
診療時間：平日 午前8:30～12:30
午後3:00～6:30
（夜診：午後1:00～3:00）
土曜日 午前8:30～1:00
休診日：日曜・祝祭日 ●急患は随時受付

福田克彦(ふくだ・かつひこ) 副院長

岡山県出身。鳥取大学医学部を卒業後、同大学大学院医学研究科博士課程を修了。済生会江津・松江生協・赤十字病院勤務後、2006年福田内科クリニック副院長に就任。日本統合医療学会・抗加齢学会をはじめ、アレルギー学会、東洋医学会、心療内科学会、ホメオパシー医学会、英国Faculty of Homeopathy、アロマセラピー学会などの学会や研究会に所属。日本統合医療学会山陰支部副支部長も務めている。

域を実践されています。ジオパティック ストレスと呼ばれる電磁波障害や水脈、断層といった住環境が人間関係や心身の健康に影響を与えているという考え方に基づき、言語を周波数化し情報場と生体エネルギーを最適化するロゴストロンという機器を用いて自宅やオフィス・エコビレッジをイヤシロチ化する取り組みを当院からも出雲地方を中心に広めております。

近年、効率優先の住環境などでの通信システム網の高度化に伴い、職場でも電磁波障害やジオパティックストレス、化学物質過敏症など昭和時代には顕著でなかった新型の病を患う患者が急増しています。そういった方は産業医から精神科に紹介された挙句に、薬物投与と休職の悪循環が繰り返されるだけで根本原因が未解明のままです。しかし精神病と診断された多くは病巣感染による全身性炎症や、有害金属・環境化学物質・マイコトキシンなどの病原菌汚染、栄養代謝障害による口腔・腸内細菌叢、腸脳相関の不均衡など、脳神経以外のさまざまな要因によって引き起こされています。統合失調症と診断されていたある女性はオール電化マンションでソーラーパネルや、スマートメーターに囲まれた高層階に入居した途端に電磁波

障害を受けていることが判りました。スプリングベッドで寝るのを止めていただけ、安全な歯科金属除去・肝腎のデトックス、EATやQUINTONなどによって全身性の病巣感染の制御と適切な栄養療法によって長年服用されていた多くの抗精神病薬が不要になった方もおられます。

精神科で扶養能力がないと見なされたことでお子さんと引き離され、託児所や児童保護施設での面会が制限されていた母親も、転居やソーラーパネルやスマートメーターの撤去を役所と電力会社にご協力いただいた末に、化学物質・電磁波過敏症による心身状態が安定し、出生後初めて親子の同居が叶ったケースもあります。

このように脳病理・精神分析・薬物療法中心の精神医療だけでは、体内外環境要因や非コードDNA、時空を超えた電磁場やエネルギー体の異常を察知して修正することはできません。それに気づかない医療が続くかぎりは今後も精神障害者が濫造され、救済するはずの障害者総合支援や生活困窮者自立支援・年金制度などの社会医療システムの普及によって、かえって家族離散や会社復帰のチャンスが阻まれてしまう国民が増え続けるでしょう。



住宅街の中にある福田内科クリニック。待合室は大きく開口した窓から明るい自然光がたっぷりと射し込む居心地のよい空間。木調と鮮やかなブルーが美しいコントラストを描く

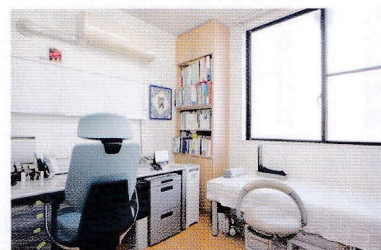
一度で何らかの結果を出す
それが私の治療のスタンス

私の最終的な治療ゴールは、「廃用症候群」で長期臥床されていた方も、施術やリラクゼーションによって認知症や要介護度を改善させ、家族団欒や社会復帰ができることです。心の闇に引きこもっておられる方や、パーキンソン病や脳性麻痺、多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症などで、何年間も食事や会話や歩行などで体が不自由だった方でも、根気強く在宅リハビリを重ねていくことで改善していくケースもあります。

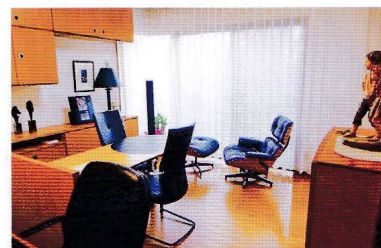
臨床心理士・栄養士・理学療法士などによるチーム医療体制下での急性期リハビリは、マンパワーの集約による効率化が期待できる一方で、慢性期の難病に対するリハビリはなおざりに放置されている現状があります。

当院では外来の合間や休日に患者さん宅や入院・入所施設を訪問し、ご家族の手助けを借りながらカウンセリングやリハビリを行うことで、すみやかな生活の自立と社会復帰を目指しています。が、今後はより多くの医療従事者にもインセンティブの得られにくい慢性期の統合的リハビリ医療の重要性をご理解いただくと光栄に思います。

初診の急性期患者においても、前世・未来世から五階層の見地からのリラクゼーションやオステオパシー、鍼灸などを施しながら、その場で少しでも状態が改善し幸せな気持ちで帰っていただくことが私のモットーです。クライアントの要望によっては認知行動療法などのカウンセリングやラドン・オゾン・水素療法をはじめ、オス



診療室では、時にはアロマやマイナスイオンを発生させるなどして患者の緊張を和らげてくれる。「うつや痛みを訴える患者さんが明るくなって帰られるときはうれしいですね」と福田先生



診療室に隣接する応接室。あらゆるアプローチによる治療や施術で、来院時に比べて少しでも症状を改善して満足して家へ帰っていただくことが福田先生の治療スタンス

テオパシーやアロマトラピー、スカラー・プラズマ電磁場でのエネルギーワークなど、西洋薬に頼らないアプローチもおこなっています。一度で100%治すことは無理でも、自己治療を啓発するきっかけを誘導し魂レベルで満足していただけることを常に目指し全身全霊で治療に望んでおります。

住環境が体に及ぼす悪影響を多様なアプローチで緩和

住環境と体内環境の健全性には密接な因果関係があると私は考えています。「0宣言の家」を提唱しご実践されている澤田升男さんの理念には納得できることが多くあります。ログ・ストロンなどを使ったアーシング(※ストレスや疲労の原因にもなる、体に蓄積した静電気を大地に放出して地面

からエネルギーを取り入れること)や宅理学も、バイオレゾナンスと組み合わせることで土地を浄化することで住環境の改善につながります。ここ出雲地方でも干拓や水脈を曲げて宅地や工場を誘致したことで河川や土壌が汚染したり風土病が発生している地域があります。そういう困難な状況に気付かず仕事や生活を営まれている住民の方々が、地域ぐるみで安心・安全な環境で健康や幸せを取り戻す第一歩として、澤田先生が実践されている「0宣言住宅からはじまる家庭やコミュニティの創造は重要な役割を担っている」と思います。

家庭内DVや親子兄弟喧嘩、引きこもりや遺伝的・気質的な脳障害に起因するといわれている発達障害(自閉症)も、住環境や体内環境に問題

があることが多いのです。電磁波障害を受けていたり、断層や水脈の上に寝ていたり、もともと沼地だった場所に住んでいたりと、その土地に纏わる歴史を考慮して家や工場を建てている方は少ないので、こうした地勢・風土・建築生物的要因による悪影響をさまざまアプローチで統治してイヤシロチ化していく必要があります。

私はサイキックアタックや霊障には鈍感ですが、電磁波・化学物質過敏の方の中には、クリニックにさえ入れないという方もおられます。その場合は往診やオンラインでの在宅診療をさせていただき、エネルギー体からの心身の浄化と共に、環境改善水で場を清めたり分電盤の交換、ガンマップロなどの電磁波軽減やログストロンやカグツチなどでの地盤改良によるイヤシロチ

化をお勧めしています。

近年、農薬や防蟻剤、有害な建築資材を使わない木造建築住宅に住むことで精神疾患やアレルギー症状が軽減され、鉄筋コンクリートの高層階に住むほどガンが増えたり死亡率が上がるということが報告されています。

近い将来、ホリスティックリトリートを構想していますが、その際にはバウビオロジーや宅理学に基づいた自然の循環システムが息づく健康建築を選びたいものです。

今後は地域住民だけでなく地元の仕事場や公共団体の建築事業、自治体の企業誘致の際にも、自然の環境保全や人体の健康増進に配慮した循環システムや天然素材を活かした建築への意識改革に取り組んでいただけると光栄に思います。

電磁波障害、ジオパティックスストレス：悪影響の要因を正しく突き止めて症状に苦しむ患者さんを救いたい。



統合医療センター
福田内科クリニック
〒690-0015
島根県松江市上乃木9-4-25
☎0852-27-1200
<http://www.tougouiryu-fukudaclinic.com>